

令和6年度 自己評価結果票

社会福祉法人三原のぞみの会
幼保連携型紅梅認定こども園

1. 教育・保育目標

◆子どもの発達の連続性を考慮した環境の中で、0歳から就学前までの一貫性のある教育・保育を行い、一人ひとりがその子らしさを発揮し、共に育ち合う生活を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

＜めざす子ども像＞

- ・自分のしたい事に夢中になって取り組む自分大好きな子ども
- ・友だちと心を通わせてあそびや生活を作り出せる友だち大好きな子ども
- ・自然の神秘さや不思議さに感動し生き生きとあそぶ自然大好きな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

- 1, 法人理念、保育目標、目指す子ども像を全職員で再確認し、意識統一を図る。
- 2, 具体的な教育・保育内容の質の向上、実践に努める。
- 3, 職員確保(保育教諭)・人材育成の実行。職員のやりがいや職務内容の充実・意識化を図る。
- 4, 未就園児の親子に焦点を当て、地域の子育てが孤立しないように支援をしていく。
- 5, 大規模自然災害対策、感染症対策に努める。

3. 教育及び保育の内容の概要

- ・0歳児 特定の保育教諭との応答的なかわりの中で、安心して過ごせるように情緒の安定を図る。
- ・1歳児 一人一人の気持ちを理解・受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことが出来るようにする。
- ・2歳児 自己主張をしたり、反抗したりするときの一人一人の気持ちを受け止め共感し、自我の育ちを援助する。
- ・3歳児 自我の成長を踏まえ、子どもの気持ちや考えを受容し、主体的な行動を促していく。
- ・4歳児 自分の力を発揮していく中で、「達成感の喜び」や「満足感」を味わい、自信を持って行動できるようにする。
- ・5歳児 自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高めていくようにする。

4. 成果

- 今の子どもの姿を反映し、行事について取り組み方や発表の仕方を見直し変化させていく事が出来た。園内研修を行い保育場面のよみとり方等、職員全体で保育をする上で大切にしていきたい部分を共有した。また、虐待防止委員会を設置し、虐待防止の意識を高めていっている。
- 地域子育て支援センターのイベントや試食会、クッキング等、こども園で実施することで、同年齢の子どもたちの様子や職員の関わりをみてもらえる場面を作り、未就園児の親子への支援にもつなげていった。
- 人材育成、職員の質の向上の為、外部研修、内部研修を積極的に計画し、職員のモチベーションアップへとつなげていった。職務の整理を行い、重点的な仕事内容と省略できるものを精査し、こどもとしっかりと関われる時間や余裕を増やしていった。
- 自然災害、感染症対策については、常に新しい情報収集や内部研修を行い、職員一人一人の危機管理能力を高めていった。

5. 課題

- 1, 法人理念、保育目標、目指す子ども像を全職員で再確認し、意識統一を図る。
- 2, 子供が主体的に取り組める行事、活動内容の見直しを行う。
- 3, 職員自身が描くキャリアデザインを把握し、ライフステージに応じた働き方を可能にしていくよう働き方の選択肢を整理していく。
- 4, 少子化での園児減少に伴い、園を知ってもらう工夫をしていく。来年度からスタートする「誰でも通園事業」がスムーズに開始できるよう整備していく。
- 5, 感染症の流行や大きな災害に備え、地域との連携等引き続き BCP 整備に努めていく。

6. 財務状況

当法人監査により、適正に運営されていると認められている。